

漢字・語句の確認

漢字	文脈	段落構成	主題	合計
/40	/46	/8	/6	/100

検印

水の東西

山崎正和

教科書

p.22  
p.27

1 漢字 傍線部の漢字は読みを答え、カタカナは漢字になおせ。

〈各1点〉

- |   |         |          |         |      |           |            |           |                                    |           |   |             |         |           |          |
|---|---------|----------|---------|------|-----------|------------|-----------|------------------------------------|-----------|---|-------------|---------|-----------|----------|
| (15)                                      | (14)    | (13)     | (12)    | (11) | (10)      | (9)        | (8)       | (7)                                | (6)       | (5)   | (4)         | (3)     | (2)       | (1)      |
| 行為の極致                                     | 圧縮する    | 空気は乾いている | 表情に乏しい  | 林立する | 水の造型が轟く   | ぎっしりと埋めつくす | 噴き上げる噴水   | あまりに忙しすぎる                          | 西洋人を魅きつける | 庭の静寂<br><small>※静かでありつつも活気にあふれているさま</small> | 時を刻む        | 緩やかなリズム | シーソーの一端   | 鹿おどし     |
| 〔 〕                                       | 〔 〕     | 〔 〕      | 〔 〕     | 〔 〕  | 〔 〕       | 〔 〕        | 〔 〕       | 〔 〕                                | 〔 〕       | 〔 〕   | 〔 〕         | 〔 〕     | 〔 〕       | 〔 〕      |
| (30)                                      | (29)    | (28)     | (27)    | (26) | (25)      | (24)       | (23)      | (22)                               | (21)      | (20)  | (19)        | (18)    | (17)      | (16)     |
| 水をカンシヨウする<br><small>※芸術作品などを味わうこと</small> | ウラづけられる | ネンドのようだ  | 東京とオオサカ | 池をホる | バロックチヨウコク | ユレ動く       | エステ家のベツソウ | ローマコウガイ<br><small>※都市の周辺地域</small> | 音と音とのカンカク | ソボクな竹の響き                                    | 文化がシヨウカイされる | クモった音響  | 水受けがハね上がる | ぐらりとカタムく |
| 〔 〕                                       | 〔 〕     | 〔 〕      | 〔 〕     | 〔 〕  | 〔 〕       | 〔 〕        | 〔 〕       | 〔 〕                                | 〔 〕       | 〔 〕   | 〔 〕         | 〔 〕     | 〔 〕       | 〔 〕      |

2

語句

傍線部の語句の意味を調べて、別の表  
現に置き換えよ。 〈各1点〉

- |                  |                           |                   |                 |
|------------------|---------------------------|-------------------|-----------------|
| (1)              | (2)                       | (3)               | (4)             |
| 何事も起こらない徒勞。(三・8) | 何事も起こらない                  | 時間の長さを            | 間隙に流れるもの。(三六・二) |
| 〔 〕              | 〔 〕                       | 〔 〕               | 〔 〕             |
| (1)              | (2)                       | (3)               | (4)             |
| 息をのむ(二四・五)       | 時間の長さをいやがうえにも引き立てる。(三三・九) | さえものにはすぎない。(二四・二) | 引き立てる。          |
| 〔 〕              | 〔 〕                       | 〔 〕               | 〔 〕             |

3

語句

次の空欄に指定の字数で適語を入れよ。 〈2点〉

さまざまに〔 〕を凝らす。(三一・一五)

※おもむきを出すために工夫をすること(二四)

4

語句

次の語句を用いて短文を作れ。 〈各2点〉

- |            |            |
|------------|------------|
| (1)        | (2)        |
| 息をのむ(二四・五) | さながら(二四・六) |
| 〔 〕        | 〔 〕        |

文脈を理解する

1 **理由** 筆者が「鹿おどし」に「なんとなく人生のけだるさのよ  
うなものを感じる」(三三・一)のはなぜか。その理由を含む連続す  
る二文を本文中から探し、最初と最後の五字を抜き出せ。 <3点>

〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃

2 \* 「それをせきとめ、刻むことによつて……流れてやまないもの  
の存在を強調している」(三三・11)について、

(1) **文脈** 「それ」は何を指すか。本文中から五字で抜き出せ。

〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃

(2) **語句** 「流れてやまないもの存在」と関係の深い四字熟語を、  
次から二つ選べ。

- ア 行雲流水 イ 山紫水明
- ウ 日進月歩 工 諸行無常
- オ 花鳥風月 カ 千変万化

〃  
〃

(3) **文脈** この部分と同じ内容を異なる表現で述べている箇所を  
本文中から三十五字以内で探し、最初と最後の五字を抜き出せ。

〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃

対比の構造 ● 水の東西

3 **理由** 「ヨーロッパでも……みごとな噴水があった」(三四・14)

のはなぜか。最も適当なものを、次から選べ。 <3点>

- ア 西洋人は日本人と違ってスケールの大きい物を好むから。
- イ 日本の噴水は美しくないが、西洋の噴水は美しいから。
- ウ 噴き上げる水の芸術は西洋人の心をくつるがせるから。
- エ 西洋には躍動感のある流れる水を好む文化があるから。
- オ 趣向が凝らされた噴水は西洋の風景の中心だから。

〃

4 **文脈** 「噴水はさまざまな趣向を凝らして風景の中心になつて  
いる」(三四・15)とあるが、「中心になつている」と対照的な表現  
を、本文中から十字以内で抜き出せ。 <3点>

〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃

5 \* 「壮大な水の造型」(三四・3)について、

(1) **文脈** 同じものを別の比喻表現で述べた箇所を、本文中から  
十字以内で抜き出せ。 <3点>

〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃

(2) **表現** この表現は噴水がどのように見える様子を表している  
か。解答欄に合うように、二十字以内で説明せよ。 <4点>  
水を噴き上げる多数の噴水が、

〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃  
〃

6 **理由** 「日本の伝統のなかに噴水というものは少ない」(二四・12)のはなぜか。その理由を含む一文を本文中から探し、最初の五字を抜き出せ。  
(3点)

□

7 **文意** 「独特の好み」(三五・11)とは何か。本文中から十五字以上、二十字以内で抜き出せ。  
(4点)

□  
20  
10  
□

8 「水を実感するのにもはや水を見る必要さえないと言える」(三五・16)について、

(1) **理由** このように言えるのはなぜか。最も適当なものを、次から選べ。  
(4点)

- ア 日本人は「鹿おどし」の断続する音の響きを聞くことで、その間隙に流れるものを実感することができるから。
- イ 日本人は、日々時間に追われている西洋人に比べて、「鹿おどし」のリズムをゆったりと味わうことができるから。
- ウ 日本人は、人工的に作られた滝の流れよりも、自然のままに流れる水の姿を美しいと感じることができるから。
- エ 日本人は、理性による思考を重視する西洋人と異なり、思想以前の感性によって美しさを感じることができるから。
- オ 日本人は、「かたちなきもの」を恐れない心を持ち、外界に対して積極的に働きかけることができるから。

□

選択肢分析

次に示す設問文とその選択肢を読み、「×」がついている選択肢について、どのような点が誤りなのかを説明してみよう。

**問** 「感性」(三五・13)の説明として最も適当なものを、次から選べ。

- ×ア 自然を圧縮したりねじまげたりすることを罪ととらえる感性。
- ×イ 目で見る自然ではなく耳で聞いて味わう自然に価値を置く感性。
- ウ 一定のかたちを持たない自然のありようを自ら受け入れる感性。

**ポイント**① 本文に書かれていない内容を含むものは明らか誤り!

□

第四段落

(2) **表現** このような表現方法を何と言うか。最も適当なものを、次から選べ。  
(3点)

- ア 比喩
- イ 象徴
- ウ 対句
- エ 誇張
- オ 逆説

□

9 **表現** 「流れる水と、噴き上げる水」(二三・13)、「時間的な水と、空間的な水」(二四・10)、「見えない水と、目に見える水」(三五・15)とあるが、これらの表現は文章の中でどのような役割を果たしているか。適当なものを、次から二つ選べ。  
(各3点)

- ア 日本文化と西洋文化の違いを対比的に提示する。
- イ 日本文化の西洋文化に対する優位性を強調する。
- ウ 西洋文化の日本文化に対する優位性を示唆する。
- エ 次の段落の展開を読者が予想できないようにする。
- オ 前後の段落がまったく異なる内容であることを暗示する。
- カ これまでの論旨内容を象徴的にまとめる。

## 段落構成をまとめる

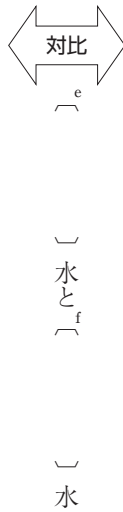
10 構成 次の空欄に本文中から適当な言葉を入れよ。 〈各1点〉

日本 鹿おどし  
 ・<sup>a</sup>「<sup>b</sup>」<sup>c</sup>ものを感じさせるとともに、それをせきとめ、刻むことで、流れてやまないものの存在を強調している



西洋 ニューヨークの噴水  
 ・華やかな水の芸術として人をくつろがせる  
 エステ家の噴水  
 ・壮大な水の造型  
 ・空間に静止しているよう

日本 日本人にとっての水  
 ・水は自然に流れるのが美しく、造型する対象ではない  
 ・かたがないということへの独特の好み  
 …思想以前の<sup>g</sup>「<sup>h</sup>」による



断続する音の響きで、間隙に流れるものを<sup>h</sup>「<sup>i</sup>」に心で味わう  
 ・日本人は水を実感するのに水を見る必要がない  
 鹿おどし || 日本人が水を鑑賞する行為の極致

対比の構造 ● 水の東西

## 主題を考える

11 主題 筆者の主張に合致するものを、次から選べ。 〈6点〉

ア 水がたまるとつれて静かに高まっていく緊張を一気に解放させ、優しい音を響かせる鹿おどしは、その単調なリズムを緩やかにかつ無限に繰り返すことよって、忙しい現代の日本人が見失ってしまった悠久の時の流れを再認識させる。

イ 人工的な滝を作ることにはじめていた日本人が噴水を作らなかったのは、西洋との気候風土や水道技術の発達レベルの違いのためではなく、水は自然の法則にしたがって上から下へと流れ落ちるべきものだと思いついていたためである。

ウ 自分に都合よく自然を造型しようとする西洋人と比べて、「行雲流水」のように、自然に逆らうことなく、むしろ自然にまかせて行動することをよしとした日本人の外界に対する受動的な態度は必ずしも悪いとは言えない。

エ 西洋人は、水を自分たちの表現したい造型を作り上げるための素材として扱っているのに対して、日本人は、かたちなき水の持つ自然の性質を生かしつつ、水そのものを目だけでなく心でも感じようとする心性を持っている。

オ 断続する音を刻むことで静寂と時間の長さを引き立てることを繰り返す鹿おどしは、無常観に基づく「行雲流水」に象徴される感性を持ち、あるがままの自然に手を入れることを嫌う日本人にふさわしい装置だと言える。

